

# 安曇川地域の保育園および幼稚園のあり方について 懇話会から意見書が提出されました

安曇川地域には、就学前の乳幼児の保育・教育施設として、民間幼稚園2か園、民間保育園1か園、および公立保育園1か園の計4か園がありますが、市内の他の地域と同様に、近年少子化が進み、地域の児童数が減少していること、核家族の増加および保護者の就労状況の変化により、保育園へのニーズが高いことから、幼稚園の入園児童数は年々減少し、民間幼稚園の経営は非常に厳しい状況となっております。

そこで、昨年11月に「安曇川地域の保育園および幼稚園のあり方懇話会」(安曇川地域の住民の方21人)を設置し、(1)保育園および幼稚園のあり方に関すること、(2)保育園および幼稚園の施設の整備に関すること、(3)保育園の統廃合に関する点の3点についての検討をお願いしました。

懇話会では、これまで4回にわたり会議を開催し、各委員から意見を聴取し検討が行われてきましたが、今般、懇話会の意見がまとめられ、去る3月30日に本田会長から市長に意見書が提出されました。



## 懇話会の意見

(1) 現在、安曇川地域にある保育園および幼稚園の4か園については、それぞれ地域に密着した子育て支援施設として大切な役割を果たしています。安曇川地域の児童数の推移から今後も少子化が進む状況において、安曇川地域の乳幼児保育・教育施設の将来像は、東西に長い地形にも配慮し、施設がひとつの地域内(小学校区内)に集中しない様バランス良く配置する

こと、および民間施設の経営の安定が図られるよう十分考慮することが必要です。  
従って、安曇川地域内における施設の定員規模は、100から120人とし、施設数は、2から3か園が適正であると判断されます。  
なお、安曇川地域内の施設の統廃合については、市の乳幼児教育に対する考え方や方向性を明確にしたうえで、関係する地域住民に十分な説明と意見聴取を行い、市内の他地域とのバランスも考慮し、

検討する必要があります。

(2) 安曇川地域では、幼稚園への入園児童数が減少し保育園への入園児童数が増加している現状を考えると、保育園機能の充実が求められています。このため、幼稚園が、保育園と幼稚園の機能を併せ持つ施設である認定こども園(幼保連携型)により保育園部を設置することは、止むを得ないものと考えます。

(3) 安曇川はこぶね保育園が進める安曇小学校区等への移転・改築計画については、現在施設のある本庄地域の住民にとって大変重要な問題であることから、地域住民の意見を十分聞いたうえで移転・改築を進めるべきであります。  
また、新しい土地を取得し移転・改築を行う施設整備計画については、各地域の実情を考慮する必要があるため、行政と事業者との十分な協議が必要であると考えます。

(4) 安曇川地域の民間3か園が直面している施設の老朽化に伴う園舎の改築、ならびに認定こども園の整備については、早急に計画を具体化されたい。

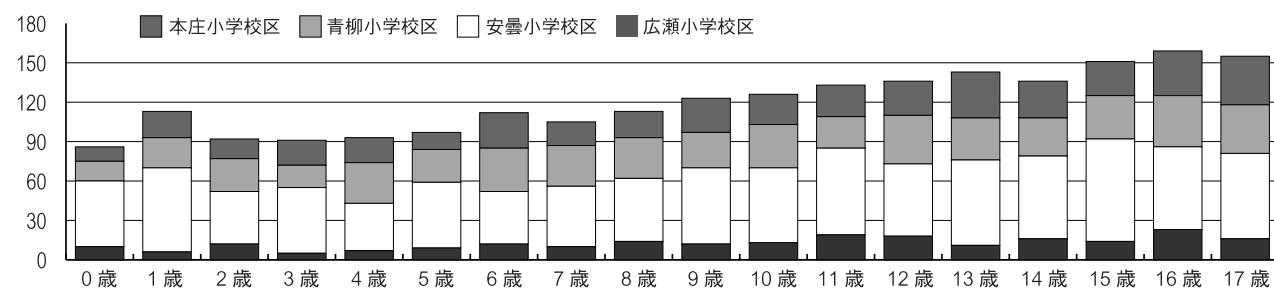


本田会長から西川市長に意見書が手渡されました。

### ◆懇話会委員の構成

- (1) 学識経験者 ..... 1人
- (2) 安曇川地域の関係者 ..... 8人
- (3) 保護者会の代表者 ..... 4人
- (4) PTAの代表者 ..... 8人

## 安曇川地域の児童数の状況



※写真はイメージです。